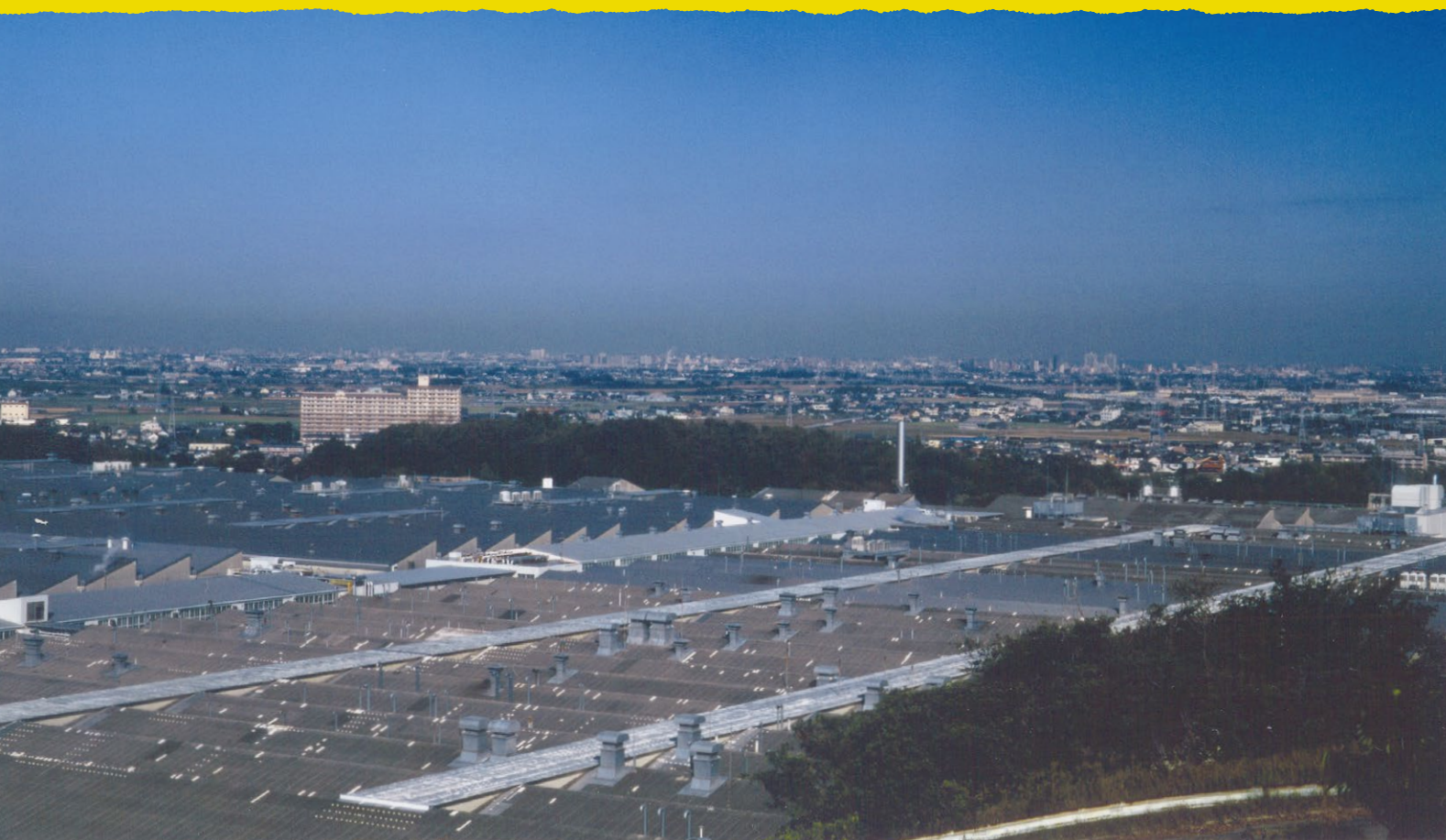


悠紀斎田と企業城下町

六ツ美南部学区

MUTSUMINAMBU



《悠紀の里のイメージキャラクター》



我が郷土 六ツ南かるたで 愛深め

△ふれあい六ツ南かるた大会。両手を頭につけて無言で待ち、読みあげられた句のかるたを取るのがルール。毎回、白熱した戦いが繰り広げられます。



△かるたに描かれた場所を訪ねるウォーキング。

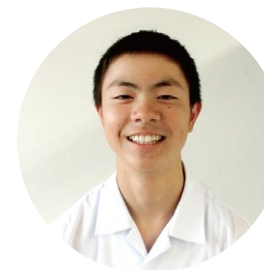


平成22年、六ツ美南部小学校の6年生が卒業記念に製作したのが「六ツ南かるた」です。後世まで語り継ぎたい自然・歴史・偉人・産業・文化財などを選び、教師や地域の人々と一緒に完成させました。読み札の文字は学区在住の書道家、鶴田千枝さん、絵札の絵は日展入選の画家、浅井貞男さんが描いています。毎年11月には「六ツ南かるた」の地を訪ねるウォーキング、1月には「ふれあい六ツ南かるた大会」を開催。かるたを通じて、ふるさとの魅力を再発見し、未来の子どもたちにも伝えていきたいです。



「六ツ南かるた」は1セット500円(税込)で販売しています。欲しい方は六ツ美南部小学校までお問い合わせください。
☎ 0564-43-2105

子どもたちからのメッセージ ※平成27年度



豊かな自然に恵まれ、伝統的なお祭りもあるこの町の良さをいつまでも残していきたいです。

六ツ美中学校3年
高木 颯斗 さん(中島東町)



地域の方々の笑顔にあふれた温かい町。時代が変わっても、この景色は変わらないでほしいです。

六ツ美中学校3年
牧 花帆 さん(中島東町)



編集後記

1970年代の企業進出に伴い、全国各地から移住してきた企業戦士たち。地域の歴史を顧みる機会を得て、三河エリア、とくに碧海・岡崎の変遷や近隣の市町とのかかわりをいろいろと知ることができました。六ツ南の豊かな自然や文化に育まれた「ベッドタウン」、今後の発展には戦いを終えた世代の継続的な「まちづくり」の取り組みが大きな推進力になることでしょう。みんなで「仲よく・楽しく」、気楽にチャレンジしていきたいと考えています。

〔作成委員会〕 茶木正/柴田彰/榎田義則/腰山義之/杉浦勝英/杉浦久直

〔参考資料〕 六ツ美村誌/六ツ美風土記/六ツ美南部の歴史・文化を紐解く/わたしたちのふるさと 六ツ南114選/悠紀斎田中島案内/碧海大地の農業の礎 大嘗祭悠紀斎田/大嘗祭六ツ美悠紀斎田100周年記念事業記念誌

〔写真・資料協力〕 斎藤晃/鶴田泰正/つるや呉服店/近江屋酒店/早川佐代子/高橋富寿/平野敦子/手島奈代子/鈴木喜信

〔表紙写真〕 デンソー西尾製作所から眺めた六ツ美南部学区と六ツ美悠紀斎田100周年記念お田植えまつり
(2016年6月・2015年6月撮影)



線路の一部が六ツ美南部
小学校の校庭に残っています

1 昭和5年頃の六ツ美第三尋常高等小学校。校舎の目の前を西尾軽便鉄道が走っていた



2 中島駅のホーム。左手に広田川が流れる



3 崇福寺境内にあった六ツ美保育園。昭和26年に六ツ美南保育園が開園し、機能に移管された



4 高橋用水中継所の壁画。岡崎城と桜、花火大会、八丁味噌、お田植えまつりなどが描かれている



5 衣浦岡崎線の全線開通を祝い、中村町から正名町までの725mを通り初めフリーウォーキング



6 六ツ美悠紀斎田100周年記念お田植えまつりに秋篠宮同妃両殿下が御臨席になった

六ツ美南部学区の

なりたち

DATA



□人 □ 11,305人
男性 5,922人
女性 5,383人

□世帯数 4,280世帯

□面積 3.75km²

[2016年7月1日現在]

占部用水竣工

正名村が誕生（正名村と二軒屋村が合併）

中島村（下中島村と高畑村が合併）、占部村（国正村、中村、正名村、定国村、上三ッ木村、下三ッ木村、野畑村、下和田村、坂左右村が合併）、阿乎美村、糟海村、中井村が誕生

杉浦製糸所設立

中島耕地整理完工

碧海郡六ツ美村が誕生（中島村、占部村、合飲木村、青野村、糟海村、中井村が合併）

六ツ美第三尋常小学校開校…1

西三軌道（西尾軽便鉄道）の岡崎新―西尾間が開通…2

大嘗祭悠紀斎田の儀式が執り行われる（↓特集）

中島新町に睦劇場ができる

碧海郡六ツ美村立六ツ美中学校開校

杉浦製糸所の乾燥場にマルス劇場ができる

六ツ美南保育園開園…3

後屋敷、定国で簡易水道開始

中島で簡易水道開始

町制施行で碧海郡六ツ美町となる

高橋用水竣工

碧海郡六ツ美町が岡崎市に合併

岡崎市立六ツ美南部小学校に改称

（株）デンソー西尾製作所創業

中島保育園開園

六ツ美南部学区市民ホーム設立

悠紀斎田保存会が主基斎田を訪問

六ツ美南部学区こどもの家設立

六ツ美中学校が学校分離（六ツ美中学校と六ツ美北中学校）

悠紀斎田保存会と主基斎田保存会が交流調印式を執り行う

六ツ美南部児童育成センター設立

六ツ美南部小学校創立100周年

六ツ美南部小学校が「六ツ南かるた」を制作

六ツ美中学校美術部が高橋用水中継所の壁画を作成…4

都市計画道路衣浦岡崎線が全線開通…5

地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」が全館オープン

六ツ美悠紀斎田100周年記念お田植えまつりが開催…6



は 羽角から長円寺へと古墳群

六ツ南かるたで読む
六ツ美南部の歴史

へ 平安は葦嶋五郷の名を残す



ふ 不毛地を潤す明治の高橋用水



こ 耕地整理し
二毛作遂げた鶴田勝蔵



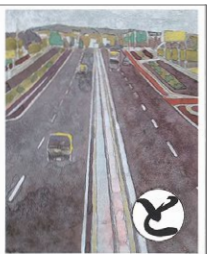
き 汽車走る西尾岡崎軽便の道



て デンソーができて学区の力増す



と 東名に通ずる便利な衣岡線



衣浦岡崎線を南に走れば国道23号に接続し、名古屋方面へのアクセスも良く、さらなる地域活性化に期待が寄せられています。

六ツ美南部学区

まちあるきマップ

六ツ美南部学区は花いっぱい町。神社や公園には桜やツツジ、高橋用水路や悠紀の里周辺には桜の苗が植樹されています。また、かつて多くの商店が軒を連ねていた中島町には、創業100年以上の老舗が健在です。花や名木を愛で、買い物を楽しみに遊びにきてください。

占部村の初代村長、平井要造の記念碑があります

六ツ美南部小学校の校歌にも登場します

表紙写真はデンソー西尾製作所から撮りました！

西尾鉄道の中島駅の周辺に、約140軒の商店が軒を連ねていました。八百屋や料理屋、桶屋、鍛冶屋、炭屋、傘屋などの専門店のほか、銭湯や劇場などもあり、大変賑やかでした。

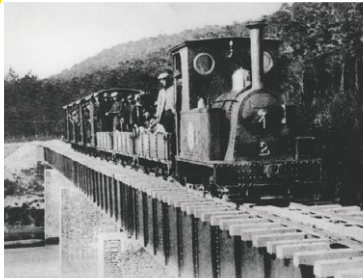
- 1 昭和初期の杉浦製糸所では500人もの女工さんが働いていた
- 2・3 杉浦製糸所の乾燥場を利用して昭和23年に開業したマルス劇場。芝居を中心に地元の舞踏会なども開かれた。写真は昭和28年の赤堀流舞踏会
- 4 昭和6年開業の睦劇場。7000人収容の大劇場で、大勢の人々が訪れた
- 5 中島商店街の大売出し。揃いのユニホームで自転車に飛び乗り、村中を宣伝して回った

鉄道も走った！

明治44年(1911)に西尾〜岡崎新駅間13・3kmの営業運転が始まりました。駅は八つあり、六ツ美南部学区には中島駅と占部停車場が設置されました。1日2往復の運行が、大正4年頃には12往復になり、石炭、木材、玄米、肥料、生繭などの貨物輸送が盛んになりました。悠紀斎田お田植えまつりや岡崎公園の花見の時期には臨時列車が走りました。



ひよこを積んだ坂口人工孵化場の車。中島駅から全国に出荷された



矢作古川の鉄橋を走る西尾軽便鉄道

六ツ美南部の名木と花



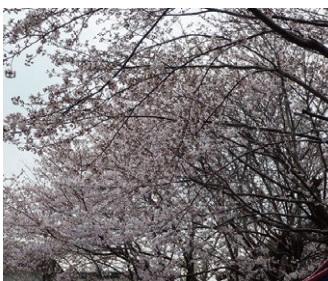
A 正名のくろがねもち



B 八幡社の招霊木(おがたまのき)



C 斎田公園のツツジ



D 中島児童遊園の桜

地図のアイコン

- サクラ ツツジ ヒガンバナ コスモス
- 名木 ● 今はない昔のスポット



E 崇福寺のひば



F 日長社のムクロジ



G 浄光寺のイチヨウとハマボウ



H 中島町の明治時代から続く医院が3つ。鍋田眼科医院の重厚な玄関は創業当時のまま

にぎわった昭和初期の中島の街



六ツ南かるたで読む 六ツ美南部のまつり



平成27年6月7日に行われた六ツ美悠紀斎田100周年記念お田植えまつり

た 大正の 天皇即位 お田植え祭り



天皇が即位した年に行う祭を大嘗祭（おほじゆまつり）といいます。その年に収穫した米を神々に供え、天皇陛下もお召し上がりになります。この献上米を作る水田を斎田といいます。

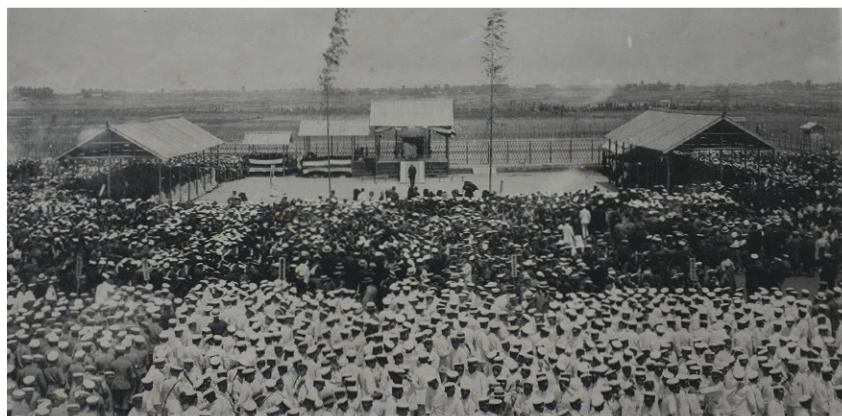
大正3年（1914）3月、数多くの候補地から碧海郡六ツ美村（現岡崎市中島町）が斎田に選ばれ、村中が喜びに沸きました。同年4月に昭憲皇太后が崩御したため、翌年の大正4年に執行。悠紀斎田に向けて奉公者を107名選び、祓式（はらいしき）には約4600名が参加しました。6月に開催されたお田植えまつりには7

万人以上の人々が参加し、大変な賑わいだったそうです。この名譽を記念して、六ツ美地区では毎年6月第1日曜日に「六ツ美悠紀斎田お田植えまつり」を行っています。平成27年の六ツ美悠紀斎田100周年記念式典には秋篠宮同妃両殿下が御臨席になりました。

も 持ち稲の 萬歳育て 奉納する



献上米の稲は、「萬歳（ばんざい）」という品種の苗が選ばれました。碧海郡の早生種で、「郡益（ぐんえき）」という名が付いていましたが、一大行事を末永く記念するため改称。その後、萬歳の栽培は途絶えていましたが、平成27年に悠紀斎田の古跡地に開館した「悠紀の里」の一角で栽培されています。



大正4年6月5日に開催されたお田植えまつり



お田植え踊り



大正4年のお田植えまつりで配布された『中島案内』。大嘗祭悠紀斎田の概要、中島の名所旧跡、飲食店、「萬歳」を使用したお土産などが紹介されている。編者は耕地整理に尽力した早川治三郎（じさぶろう）

岡崎市地域交流センター

六ツ美分館 「悠紀の里」



六ツ美地域の歴史や文化財を紹介する資料室と地域交流スペースが併設。資料室には悠紀斎田に使用された農機具や記念品、当時の写真が展示されています。

大嘗祭悠紀斎田の 米づくり

大嘗祭に納める献上米を作るために、稲の種まきから田植え、刈取り、稲扱き（もみ）、搥りなどの一連の作業が六ツ美村で行われました。奉公する人々の衣装や農耕具も特別に作られました。大正4年10月16日、安城駅から特別列車で京都に運ばれ、11月14日に大嘗祭が執り行われました。



《はざ掛け》



《稲刈り》



《田植え》



《供納米を運ぶ》



《稲を乾燥》



《脱穀》

ほ 豊作を 祈る神々 御田扇祭り



素盞鳴神社（定国町）から占部天神社（中村町）への渡御



御田扇祭りの名の由来にもなっている大団扇

「ちりから囃子」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓、からは小鼓を表します。矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チャラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりから囃子が行われてきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社ではやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。

《毎年10月10日前後の日曜》